

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいわの里子ども療育センター		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61名	(回答者数) 51名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士・児童指導員＋専門職(看護師・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・管理栄養士等)がいることでいろんな支援ができる	・利用される児童の様子について、専門職と意見交換しながら、支援内容を検討することができる。 ・リハビリのみの利用を希望される場合は外来リハビリにて対応を行っている。	・保育士、児童指導員だけでなく、専門職にも療育の実践の中に入れてもらい、一緒に実践内容を検討していく。
2	ご家族・関係機関とのコミュニケーション、情報共有を大切にしていること	・ご家族とは送迎時の情報共有や連絡帳を活用して、ご家族の思いや悩み相談など一緒に考えていく関わりを大切にしている。 ・関係機関とは児童の支援について一緒に考えることで共通理解や支援内容が統一していけるように連携を図っている。	・定期的に個別支援会議を行うことでご家族、関係機関と共通理解が図れるようにしていきたい。 ・普段のやりとりだけでは十分にご家族の思いを聞き取れないこともあると思われる為、面談等要望がある時には随時面談を実施していき、ご家族の思いを聞く時間を設けたい。
3	事業所周辺に自然が多いことや社会資源があるのでいろんな活動が体験できる	職員会議やグループ会議の中で活動計画を立てている。事業所内だけが活動スペースとは考えず、色々な活動を体験することを大事にしている。 例：海での屋外活動・地域のお店で買い物体験 公共機関を使って遠足など	・体験を通して、楽しめたことなど、次の活動につなげていく。 例：お店屋ごっこやお泊まり会、買い物活動をしてからのクッキングなど ・いろんな社会資源が他にもあると思うので計画や立案をスタッフみんなで考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	さまざまなマニュアルはあるものの、ご家族がわかりやすい内容となっていない。また周知の面でも理解ができていないご家族が多く、改善が必要。	・マニュアルは施設内に提示をしているが一枚の用紙にたくさん情報がまとめられており、見にくい内容になっている。 ・マニュアルを周知する回数が少なかったように思う。 ・職員間でマニュアル内容を話し合う機会が持てていなかった。	・マニュアルに関しては情報をまとめていき、わかりやすい内容に変更していく(職員へも周知) ・ご家族へ配布であったり、お知らせを行いながら、マニュアルについて理解していただけるように努める。
2	ご家族とゆっくりと話し合う機会が少なく、関係を築いていくことの難しさを感じる	・送迎を行っていることでご家族と会う機会があまりない。 ・保護者茶話会は実施しているが療育参観日と同じ日することでゆっくり話し合う時間の確保ができていなかった。※年長児は就学も控えている為、保護者茶話会の時間を多めに確保している。	・保護者茶話会の目的を職員間でもう一度、確認する機会を設ける。必要時は療育参観日と茶話会を別日で設けるなど、検討をしていきたい。
3	災害訓練を職員は毎回参加することができているが子ども達全員が体験できる内容になっていない。	・毎日利用をする児童がいない為、訓練回数を増やして実施する必要があるが活動やおそびの流れもあるので実施していなかった。 ・午前に利用児童が多い為、午前で訓練を実施してきた。	・利用児童が2月に1度は訓練に参加できるように訓練日を設定する。 ・午後、利用の児童についても訓練を実施できるように計画を立てていく。